

プロ転向2戦目V

6打差を大逆転

通算 11アンダー 277

北海道札幌市出身の22歳

小村優太（福岡センチュリー）



【写真は優勝した小村Ⓔと特別協賛のえんホールディングス・原田透社長】

道産子が火の国でプロとしての輝かしい一歩を踏み出した。最終日が始まる前、首位の田中とは6打差。18ホールで逆転するのはかなり難しいと思われたが、小村はわずか4ホールでタイに持ち込んだ。1番4m、3番5mのバーディーパットを決める。それでもまだ4打差。そして迎えた4番ロング。田中が第1打を大きく右に曲げて松林に打ち込み、ミスを連発。このホールをトリプルボギーにすると、小村はバーディーを奪って並んだ。その後、11番で1打のリードを許すが、田中が13、15番とダブルボギーを叩いて勝負は決した。

「めちゃめちゃ嬉しい。勝ちたいなあとは思っていたけど、こんなに早く勝てるとは思っていなかった」。今年3月、日本経済大を卒業してプロ宣言。その月の北九州オープンに次

いでプロ2戦目での栄冠に小村自身も驚きを隠せない。現在はPGA（日本プロゴルフ協会）のプロテスト受験中という状況下でいち早く優勝カップを手にした。

北海道札幌市出身。9歳の時に父・一隆さんから練習場に連れて行ってもらってからゴルフと出会う。北海道ジュニア、北海道アマ、日刊アマなど数々のタイトルも獲得。札幌龍谷学園高を卒業後、福岡の日本経済大に進学した。今は大学時代にキャディのアルバイトをした縁もあって福岡センチュリーGCに社員として入社。「すごくいい環境でゴルフに集中できる」と現在の境遇に満足している。

得意なクラブはドライバー。身長178cm、体重83kgのボディから放たれる平均飛距離は300ヤード超。「飛距離はアドバンテージ。飛ばせば他の人が狙えない所から狙っていける」と自信を持つ。そのドライバーを武器に当面の目標は7月のプロテスト2次をクリアすることだ。そのあとには今回の優勝で出場権を得た10月の日本オープン選手権（大阪・茨木CC西コース）が待つ。「どれくらい通用するか。タイミングが合えば、ポンポンと上位に…」と夢も膨らむ。

《ひと言》

◆2位・田中元基（2位に4打差がありながらも1トリプルボギーと2ダブルボギーで初優勝を逃す）「優勝をしたかった。ずっとティーショットに不安がある中で自分の武器であるショートゲームで3日間、アンダーで回れたし、自信がついた。4番のトリプルの後、（8ホールは）スコアを落とさなかったし、昨日より悪い雰囲気はなかった。収穫はいっぱいあったし、次に生かしたい。小村君は強かった」

九州アマとベストアマの2冠

通算4アンダー 284

開陽高3年の有菌純（霧島）



九州アマ優勝の有菌がベストアマのタイトルも手にした。16番まで山田玄彩（喜々津）に1打リードされていたが、17番で3m、18番では80cmのバーディーパットを沈めて逆転した。「九州アマのチャンピオンとして負けるわけにはいかなかった。ベストアマは狙っていました。次は九州ジュニアですね」と鹿児島・開陽高3年の有菌は今シーズン3

つ目のターゲットに虎視眈々だ。

《熊本空港CC》



